

2025 年度 1 月学生定例会議

雁部那由多・池本敦哉

1. 日時 : 2026. 01. 28 (Wed) 16:30 ~ 18:00
2. 場所 : SyDE 講義室
3. 議事 :

佐藤敏郎先生（大川伝承の会）より、「3.11 を学びに変える～震災 15 年、これまでとここから～」をテーマにご講演いただいた。本企画は、人びとが災害をいかに受け止め、その経験と向き合ってきたのかを、経験や記憶の側面から理解することを目的とした。災害や、その原因となる地震・津波などの自然現象は、主としてメカニズムの解明や対策の構築という観点から研究されてきた。こうした知見は防災・減災に不可欠である。一方で、実際の災害局面においては、多くの人びとが生身の人間として不確実なリスクに直面し、制約の中で判断を重ねながら生活を維持してきた。本企画では、社会科学の視点から、東日本大震災に関する伝承を手がかりに、災害経験がどのように語り継がれ、意味づけられてきたのかを検討した。

災害がいかに理不尽か、様々な立場から求められる防災は何か、なぜ風化させてはいけないか・風化させないことの意義は何か、自分の想像をはるかに超えるご経験と言葉でご教示いただいた。災害をもたらす現象を、自然科学の観点からではなく、人の観点から知る機会となった。被災地を見せると自分ごとにならず、防災から意識を遠のくとのことだった。現象論を解く研究者は、ある側面から知のフロンティアを拡張することを営みにする（ことが多い）。災害そのものを人類の知として受け止め、なぜ生じたのか・何が影響していたのか等を解明する必要がある（理学）。被害・課題が生じることを通じて、その営みの社会的インパクトは大きくなり、その被害・課題を解決することに意義が生じる（工学）。被害を定義するのは人である（社会科学）。本会は、「災害」をもたらした「現象」に対する「人」の解釈を理解する機会となり、「人間社会に顕在・潜在する多様なリスクを低減し、安全で安心できる持続可能な社会を構築していく」という本プログラムに参加する学生に対し、極めて有意義な会であった。ご講演いただいた佐藤敏郎先生に厚く御礼申し上げます。

(池本敦哉)



佐藤敏郎先生：大川伝承の会を立ち上げ、現地での語り部活動や、講演・ワークショップ「3.11 を学びに変える」、若者トーク企画「あの日を語ろう、未来を語ろう」を各地で展開。その他（一社）スマートサプライビジョン理事、NPO カタリバードバイザー、ラジオパーソナリティーとしても活動。